

江嶋修作のシンボル体系をもとにした広島平和記念公園と長崎の平和公園のモニュメント分析（研究の成果発表（シニア（大学4年生以上）, 新規発表））

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-08-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山尾, 南雲 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/00028329">http://hdl.handle.net/10297/00028329</a>

## 江嶋修作のシンボル体系をもとにした広島平和記念公園と長崎の平和公園 のモニュメント分析

山尾南雲（静岡大学大学院総合科学技術研究科情報学専攻）

メディアとして機能する「場所」は、人々が共同体の記憶にアクセスすることを可能としている。戦後75年が経つ現在の日本社会において、戦争の記憶とその継承は岐路にたっており、それは原爆をめぐる記憶も同様である。広島と長崎は、どちらも原子爆弾による被爆という歴史的出来事を有しているが、言説形成や研究成果において相違点も指摘されている。その違いは「文化的世界観の修復」の過程にあるのではないかと考え、本研究では、原爆の記憶を表象し再生産してきた両都市の「記憶の場」を改めて検証した。そして広島平和記念公園と長崎の平和公園のモニュメントを江嶋修作のシンボル体系をもとに分析し、モニュメントの変遷と類型の相違を明らかにした。モニュメントにより伝達されるメッセージは、「記憶の場」の形成と記憶の継承に影響を与えている。